

点検結果報告書（第2期・平成28年度実績版）（案）に関する意見照会結果ならびに対応案について

1 点検結果報告書（第2期・平成28年度実績版）（案）への意見等について ※誤記の訂正等は除く

- 意見 （27件）【整理No. 1～6、9～15、17、18、20、21、23、24、26～33】
- ◆ 質問 （6件）【整理No. 7、8、16、19、22、25】

2 各意見に対する対応案について

意見の内容に応じて、点検結果報告書の総括等に記載するなどの対応案について以下のとおり区分した。

- 【総括本文】 委員からの意見の主旨に沿って総括本文に記載、又は総括本文を修正、加除した。
- 【個別意見】 委員からの意見の主旨に沿って総括本文を修正、加除することは困難であるので、県民会議委員の意見として別欄に記載した。
- 【報告書反映】 総括本文以外の箇所の意見、報告書の表記の仕方等に関する意見として、報告書に反映した。
- 【その他】 点検結果報告書に記載する以外の方法で対応した。

3 意見別対応案一覧

事業名	整理No	意見	委員名	対応案
1 水源の森林づくり事業の推進	1	○森林整備の現状において進めなくてはならない間伐促進や林道網の整備などの事業が、まさにシカへの食物供給量増加に寄与することから、柵による空間的排除、あるいは食物供給地における捕獲強化によって、調整していくことがシカ管理の重要な課題であり、税投資の効率性を意識する上で配慮が欠かせない点である。	羽澄	【議論のポイント1】 総括本文 (P1-9)又は 個別意見
	2	○（総括本文の修正） （1）水源の確保・整備 「今後とも立地環境や土壌条件などの現場状況を踏まえた、きめ細やかな事業推進が求められる。」 ⇒ 「 <u>今後は既に本数調整伐が行われた地域での、雨滴浸食やシカの侵入による下層植生の劣化、土壌流出等、水源林機能のモニタリングを強化し、柵の設置や土壌保全を通して、植生及び階層構造の再生、多様な生物と保水力ある土壌の再生を目指す、きめ細やかな事業推進が求められる。</u> 」	川島	個別意見
	3	○（総括本文の修正） （1）水源の確保・整備 「森林の状況を所有者が継続的に把握することは困難なことから」 ⇒ 「 <u>森林の状況を所有者が把握し、適切な森林整備を継続的に実施していくことは困難なことから</u> 」	服部	その他 ※原文のまま

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
1 水源の森林づくり事業の推進(つづき)	4	○(総括本文の修正) (1) 水源の確保・整備 「森林管理の新たな仕組みの構築など、所有者の状況を勘案した対策を検討すべきである。」 ⇒ 「森林管理の新たな仕組みの構築など、 <u>森林の公益的機能を持続させるための対策を検討すべきである。</u> 」	服部	総括本文(P1-9)
	5	○(総括本文への追記) (2) かながわ森林塾 「 <u>また、年間を通した仕事量の配分と確保が、安定的な収入につながるため、林閑期である春夏期の仕事の確保を検討する必要がある。</u> 」	川島	個別意見
	6	○第二期までの水源林の確保の進捗率97.1%、水源林の整備の進捗率104.2%という状況からも、これまではほぼ順調な成果を得ていると考えます。今年度より県民会議委員としてモニタリング調査にも加わり、現場も確認しております。今後も順調な成果とその事業展開に期待したいと思います。	豊田	個別意見
	7	◆事業展開およびその実績は大いに評価できると思いますが、今後も税金投入ありきによる事業展開なのか、長期的な運用計画が見えてはいないと思われます。運用資金面も含めた長期的な展望をお聞かせいただけると幸いです。	豊田	その他 ※別途回答
	8	◆P1-8「現状での光環境やシカ密度、立地特性などによる限界値に達し、人工林の植被率は定常状態になった…」と記載されているが、この状態を是とし、現状を維持していこうと考えているのか(文面からは、是とするとも読み取れるが)、それともシカの生息密度をさらに低下させるなど植生の回復する環境を改善するなどにより、植被率の向上を図っていこうと考えているのか。	服部	その他 ※別途回答
2 丹沢大山の保全・再生対策	9	○(総括本文の修正) (1) 中高標高域でのシカ捕獲及び生息環境調査の実施 「シカを目撃情報が増え、生息数が確実に増加しており、丹沢大山地域における」 ⇒ 「シカを目撃情報が増え、生息数が確実に増加し、 <u>シカの採食による植生の衰退などが見られることから、丹沢大山地域における</u> 」	服部	総括本文(P2-8)
	10	○人口が減少し税収の減る時代に移行する中、持続性・継続性の要求される水源環境・保全再生への税の用途には、より合理性・効率性が要求される。しかし、生態系や生物を扱う事業には不測の事態が起こりやすく、本来、予測の難しいものである。そのため、リスク・マネジメントの考え方にしたいが、予測可能なリスクは、できるだけ速やかに回避するという選択をせざるをえない。シカ管理もその視点でとらえなくてはならない。 シカは本12事業のほぼすべてに関係する鍵となる種(key species)である。ところが、人口減少に伴って狩猟者不在の時代	羽澄	【議論のポイント1】 総括本文(P2-8)又は 個別意見

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
<b>2 丹沢大山の 保全・再生 対策 (つづき)</b>		<p>に移行することは明らかであり、近い将来において予測されることは、持続すべき密度管理がおろそかになると、すぐにシカは増えてしまうということである。そうなればその食圧の高まりによって、長年、多額の水源地税を投入してきた多くの事業がまるごと無駄になってしまう。</p> <p>シカが高密度になって、植生への影響が激しくなってしまった環境を修復するためには莫大なコストがかかるということを、全国に先駆けて丹沢大山の調査研究が証明したことから、低密度の段階でそれ以上増やさないための対策を工夫していくことこそ、税のパフォーマンスとしてより効果的であることも間違いない事実である。</p> <p>その点から、すでにシカの増加が始まっている南足柄、箱根方面において、これ以上、シカを増やさないための対策を開始することは、長期的な税投資の観点から選択すべきであることも明らかである。早期に食物供給量を抑制するために柵を設置するコストと、シカが増えて影響が高まってしまってから、その修復のために将来において投入しなくてはならなくなるコストを比較検討する必要がある。</p>		
	11	<p>○（総括本文の修正）</p> <p>（１）中高標高域でのシカ捕獲及び生息環境調査の実施</p> <p>「また、シカの生息密度が低下した森林では林床植生の増加も確認されるなど成果が出てきている。」</p> <p>⇒ 「また、シカの生息密度が低下した森林では一部で林床植生の増加も確認されているが、<u>全体的にはいまだ柵外の植生劣化が継続しており、植生の回復可能なシカ密度に向け、更なる捕獲圧の強化とともに、低密度化では捕獲効率の限界があると言われている銃猟については、誘引手法や、罠猟など新たな捕獲手法・体制の確立が必要である。</u>」</p>	川島	【議論のポイント1】 総括本文 (P2-8)又は 個別意見
	12	<p>○（総括本文の修正）</p> <p>（１）中高標高域でのシカ捕獲及び生息環境調査の実施</p> <p>「また、第2期計画の丹沢大山の保全・再生対策の対象地域に含まれていない南足柄市内などでもシカが目撃情報が増え、生息数が増加しており、丹沢大山地域における状況も踏まえ、早急な対策が必要である。」</p> <p>⇒ 「また、第2期計画の丹沢大山の保全・再生対策の対象地域に含まれていない箱根山地外輪山東北部でも現在、シカの生息密度が急増し、<u>山稜部の植生劣化、ササの後退が始まっている。丹沢大山地域においては、植生劣化が土壌流出を引き起こし、森林植生、水源機能にダメージを及ぼした結果、柵の設置や土壌保全に多大な労力と経費の充当を余儀なくされている。シカ対策については植生劣化を起さない低密度管理を目指し、早急な対策が必要である。</u>」</p>	川島	【議論のポイント1】 総括本文 (P2-8)又は 個別意見
13	<p>○（総括本文の修正）</p> <p>（１）中高標高域でのシカ捕獲及び生息環境調査の実施</p> <p>「なお、第3期計画では、こうした課題を踏まえて、シカ管理の対象地域を箱根山地や小仏山地など丹沢大山周辺地域まで拡大するとしており、今後の事業展開に期待したい。」</p> <p>⇒ 「なお、第3期計画では、こうした課題を踏まえて、シカ管理の対象地域を箱根山地や小仏山地など丹沢大山周辺地域まで拡大するとしており、<u>低密度管理に向けた様々な捕獲手法の研究、捕獲体制の確立など、今後の事業展開に期待したい。</u>」</p>	川島	【議論のポイント1】 総括本文 (P2-8)又は 個別意見	

事業名	整理No	意見	委員名	対応案
2 丹沢大山の 保全・再生 対策 (つづき)	14	○(総括本文の修正) (2) 土壌流出防止対策 「これまでのモニタリング調査結果によると、土壌保全対策施工後1～2年で土壌侵食が軽減、4～5年で植生や落葉等により地表面が100%近く覆われている。その後は、植生保護柵の外でも林床植生は回復傾向にあり、これはシカ管理捕獲により生息密度の増加が抑えられている影響と考えられる。」 ⇒ 「これまでのモニタリング調査結果によると、 <u>シカの採食や踏圧により土壌流出が起こった地域において</u> 、土壌保全対策施工後1～2年で土壌侵食が軽減、4～5年で植生や落葉等により地表面が100%近く覆われている。その後は、植生保護柵の外の <u>植被</u> は回復傾向にあり、これはシカ管理捕獲により生息密度の増加が抑えられている影響と考えられる。」	川島	総括本文 (P2-8)
	15	○土壌流出対策における進捗率累計141.6%は大いに評価に値すると思います。またニホンジカの捕獲および生息調査、ブナ林の調査なども、順調な成果を得ていると思います。本件は、私も今年度行なわれたモニタリング調査で現場を確認しており、今後も引き続き、順調な成果とその事業展開に期待したいと思います。	豊田	個別意見
	16	◆事業展開およびその実績は大いに評価できると思いますが、今後も税金投入ありきによる事業展開なのか、長期的な運用計画が見えてはいないと思われます。運用資金面も含めた長期的な展望をお聞かせいただけると幸いです。	豊田	その他 ※別途回答
4 間伐材の搬出促進	17	○(総括本文の修正) 「搬出時期の平準化に取り組むとともに、平成27年度に原木市場を拡張し、受け入れ体制を強化するなどの取組も併せて行ったことにより、」 ⇒ 「搬出時期の平準化に取り組み、平成27年度に原木市場を拡張し、受け入れ体制を強化するとともに、 <u>B材の販路拡大</u> の取組も併せて行ったことにより、」	服部	総括本文 (P4-4)
5 地域水源林 整備の支援	18	○(総括本文の修正) 「地域特有の課題も見られることから、」 ⇒ 「○○○や○○○などの地域特有の課題も見られることから、」 ※地域特有の課題だけでは分からない。具体的な事例を記載すべきではないか。	服部	総括本文 (P5-7)
	19	◆上記の地域特有の課題とは何か。	服部	その他 ※別途回答

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
6 河川・水路における自然浄化対策の推進	20	<p>○最近、全国的に浮上している問題は、河川環境の管理不足によって河川内部の植物が成長し、その回廊状になった緑地を通して、クマ、イノシシ、シカといった大型野生動物を含め、問題を起す野生動物が山間部から市街地の中心にまで到達して大捕り物になる事例が増えていることである。また、アライグマのような適応力の強い外来動物の分布拡大にも、河川の緑地が寄与している可能性が高いことが考えられる。したがって、人為的空間での獣害問題の抑制を含めた、総合的な生態系への配慮の視点が必要である。</p> <p>河川の生態系の整備にあたっては、河川が山間部から流れ出るあたりの河川敷内の植物について、一定距離を刈り取って、回廊機能となる緑地の連続性を断つことが必要である。その場合、刈り取る範囲が50mか、100mか、200m必要か、そのことの検証が必要である。また、野生動物の移動は、幅の狭い小規模河川であっても可能であることにも留意しなくてはならない。</p>	羽澄	その他 ※河川・水路の整備指針への反映を検討
11 水環境モニタリングの実施	21	<p>○（6）調査結果の概要の「・鳥類について」の記述のうち、前半の「森林の階層構造が複雑になると鳥類の種と個体数が増える」という記述を受けて、後半の「森林整備により階層構造の発達した人工林に誘導することが鳥類の多様性に正の効果をもたらすと考えられた」となっているが、階層構造の発達した人工林とは、単一樹種の人工林であるかのようにも受け取れることから、階層構造の発達した「森林」とすべきではないか。</p>	羽澄	報告書反映
	22	<p>◆P11-14 8行目 「従来の林業的な施業の影響として一般的に見られる渓流水の濁りや窒素濃度の増加が軽減できる可能性」との記載があるが、どのような林業的な施業により渓流水の濁りや窒素濃度が増加するのか。</p>	服部	その他 ※別途回答
12 県民参加による仕組み	23	<p>○「もり・みず市民事業支援補助金事業」において、これまで支援を受けてきた市民団体の多くが補助期間終了を迎える中で、会員の高齢化、資機材の老朽化、資金調達など、事業の継続性に関わる課題が懸念される。水源環境保全・再生における市民団体が担う公益性に鑑み、市民団体のポテンシャルやニーズの把握により一層努めていただきたい。</p>	高橋（貴）	個別意見
	24	<p>○4番事業 間伐材の搬出促進 のところで、4-5 加工・流通・普及への取組に対しては一般財源が活用されていると記載があるのに、もり・みず市民事業支援補助金の実績一覧には、間伐材の利活用促進事業（6事業）が採択されており、4番事業名との違和感がありました。</p>	森本	その他 ※別途回答
	25	<p>◆県民参加による水源環境保全・再生のための仕組みの中に市民事業支援制度があり、市民活動の「定着支援」、団体のスキルアップや自立化を目的とする「高度化支援」の2つの補助部門からなるステップアップ方式の補助金への制度改正とあるが、①団体のスキルアップのための支援の具体例と②高度化支援のための具体例をお聞かせいただきたい。</p>	上宮田	その他 ※別途回答

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
13 施策全般・ その他	26	○総括の中で、0-12ページに「下層植生回復は下層植物や林床性昆虫の種の多様性につながり、長期的には森林生態系の健全化に結びつくと考えられる。」と表現されていることは、森林の健全化が水源かん養機能の維持・向上のみならずこれを超えた視点で好ましいと思います。しかし、各事業のなかではこの表現が出てないので、各事業のなかでも、「森林生態系の健全化」を目指すという表現が出てくると良い。	滝澤	個別意見
	27	○2次的アウトカムの記述についてはサポートデータが主に付録に掲載されていて、本文中（11番事業）に書かれていないのが気になります。少なくともこの0-11ページ及び0-12ページの文章に関連するデータが付録にあることを明記しておくとういでしょう。	吉村	総括本文 (P0-11, 12)
	28	○（総括本文への追記） 「 <u>尚、ワイルドライフレンジヤーの活躍により丹沢高標高でのシカ生息密度は低下傾向にあるが、逆に中低標高では上昇傾向にあり、箱根小仏山地でもシカの分布定着が進んでいる。水源林機能保全に向け一層の対策強化が必要である。</u> 」を追記。	川島	その他 ※原文のまま
	29	○（総括本文の修正） 「台風等による災害の発生状況を踏まえ、」 ⇒ 「 <u>台風等による災害の発生状況、更にシカによる土壌流出の問題を踏まえ、</u> 」	川島	その他 ※原文のまま
	30	○（総括本文の修正） 「長期的には森林生態系の健全化に結びつくと考えられる。」 ⇒ 「 <u>長期的には保水力の高い土壌の形成や、森林生態系の健全化に結びつくと考えられる。</u> 」	川島	その他 ※原文のまま
	31	○（総括本文の修正） 「こうしたことから、水源地域の森林の水源かん養機能や森林生態系の健全化は維持・向上の方向にあると考えられる。」 ⇒ 「 <u>こうしたことから、水源地域の森林の水源かん養機能や森林生態系の健全化など、維持・向上に向けて、引き続き努力が続けられている。</u> 」	川島	その他 ※原文のまま
	32	○（総括本文の修正） 「今後も、水源かん養機能の向上、生態系の健全化、水源水質の維持・向上に向けたこれまでの取組を続けていくことによって、将来にわたる良質な水の安定的確保につなげていくことが重要である。」 ⇒ 「 <u>今後も、水源かん養機能の向上、生態系の健全化、水源水質の維持・向上に向けたこれまでの取組を継続し、更にシカの低密度管理に向けた捕獲手法や、森林の生物多様性の確保に向けた調査研究を拡充することによって、将来にわたる良質な水の安定的確保につなげていくことが重要である。</u> 」	川島	その他 ※原文のまま

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
13 施策全般・ その他 (つづき)	33	○総括案全体を、①事業の枠組み、②アウトプット・1次的アウトカム、③2次的アウトカム、④今後の話の順番にすると読みやすいです。5年分の総括なので2次的アウトカムも含めて整理するとよいでしょう。	吉村	【議論のポイント2】 ※要検討 ⇒資料1-5